

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度		科目名	イベント・メディア業界研究 4	
科目基礎情報							
開設学科	コンサート・イベント科		コース名	全コース		開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	選択		時間数	30時間
単位数	2単位				授業形態	講義	
教科書/教材	内容に応じて資料を配布する。						
担当教員情報							
担当教員	樽林 史章			実務経験の有無・職種	無		
学習目的							
日本の音楽シーンを中心に、流行音楽の流行り、廃り、を知るとともに、その音楽シーンが出来上がっていった社会状況を学びます。世界状況や経済状況の中から、どんな音楽が生まれ、育ち、売れて行ったか。なぜその音楽は売れ、人々はその音楽を必要としたのかを社会情勢を通して学びます。また、アーティスト自身が発信したいもの、伝えたいことは何であるかを直接知ることにより、発信者と消費者との関係を知り、流れた理由、廃れた理由を学びます。							
到達目標							
音楽業界で働く物として不可欠な音楽知識を身に付け、音楽シーンの歴史・多彩なアーティストへの理解力を高めることが出来る。また、音楽産業を通して日本の経済状況や、世界からどんな影響を受けて来たのかを、音楽業界だけでなく、社会全体の動きとして学ぶことが出来る。アーティストインタビューなどを通して、発信者や制作者の本当の意図を知り、伝え手として、どう伝えるべきなのか、社会へ出すタイミングやその手法なども学ぶことが出来る。							
教育方法等							
授業概要	この授業では、パワーポイントを使用し、授業を進める。また、ジャパンミュージックネットワーク株式会社の発行するwebマガジン、MUSIC UP'sの記事を使用し、実際に行われたアーティストへのインタビュー記事を基に楽曲制作の意図などを解説を交えて理解を目指す。制作意図の中からきっかけとなった社会情勢などを垣間見て、同じような社会情勢での生まれた楽曲などを理解する。						
注意点	この授業では、楽曲を製作したアーティストがどういった状況下の中で作られたものなのかを理解し、発表される楽曲から社会状況を知ることが重視する。また私語や受講態度には厳しく対応する。開始時、終了時の挨拶をしっかりと行い、受講姿勢がクラス全体で出来上がった状態で講義を開始する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することが出来ない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	100%	定期試験・提出課題によって評価				
	小テスト	0%					
	レポート	0%					
	成果発表 (口頭・実技)	0%					
	平常点	0%					
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	渋谷系音楽の誕生			渋谷系音楽を生んだカルチャーとは。音楽・ファッション・文化の連動を理解します			
2回	渋谷系音楽の変遷			街が生んだ音楽が、街で流行るものと共に形を変えて行く流れ把握します			
3回	ビーイングの誕生			急成長を遂げたビーイング。その親とも言われる長門大幸の功績を理解します			
4回	小室サウンドの誕生			アーティストからプロデューサーへ大きく変貌した小室哲哉が仕掛けた音楽とは、を理解します			
5回	小室サウンドが残したもの			日本経済にも影響を与えた小室サウンドは日本にどんな軌跡を残したのかを把握します			
6回	R&B・セツナ系の登場			新たなシーンとして発達した女性シンガーソングライターとは。女性が活躍できる社会を把握します			
7回	R&B・セツナ系の展開			女性シンガーソングライターが活躍することで、日本に女性文化の確立とそれ以上の可能性を理解します			
8回	アイドル変遷2			新たなアイドル誕生とアイドル戦国時代とは。アイドルの誕生からビジネスを理解します			
9回	アイドル変遷3			秋元康が仕掛けたこととは。秋元康の功績と日本経済との比較を把握します			
10回	ヴォーカロイドの誕生			初音ミクが産まれた環境。日本のIT業界の発達を把握します			
11回	ヴォーカロイドの成長とネット社会			IT環境の普及で始まったネット社会での音楽産業のあり方を理解します			
12回	アニソンプーム1			オタク文化が創り出した日本の音楽ビジネスのカタチを把握します			
13回	後期試験対策			これまでの後期講義内容を振り返り、重要力所の理解と共にテスト対策			
14回	アニソンプーム2			声優からアーティストへ変わる人々。音楽シーンが作る新しいアーティスト像を理解します			
15回	世界に広がる日本の音楽シーン			IT環境の変化によるCD販売からストリーミング、ボーダレスになった世界の音楽シーンへの発信を把握します			